

平成22年度
千葉県立博物館文化セミナー

千葉学講座



タマゴタケ



木積の藤箕（一斗）



藤田喬平作「ヴェニス花瓶」



初代歌川広重
下総成田道中之内小金原

県立博物館の学芸職員による日頃の調査研究活動の成果を発表します。
この講座を通して、「ふるさと千葉」を再発見してください。

平成22年10月30日（土）

- 房総きのこ今昔（中央博物館・吹春俊光）
- 匝瑳市木積の藤箕づくり（中央博物館・小林裕美）

平成22年11月27日（土）

- 藤田喬平のガラスの世界（県立美術館・金田雅成）
- 江戸・明治期の名所案内と名所土産（県立美術館・渡邊修一）

いずれも 13:30～15:30 千葉県立中央博物館・講堂にて
受講無料 定員 200名 当日会場にて受付

ちば

平成 22 年度 千葉県立博物館文化セミナー「千葉学講座」のご案内

県立博物館の学芸職員による日頃の調査研究活動の成果を発表します。

この講座を通して、「ふるさと千葉」を再発見してください。

第 1 回 平成 22 年 10 月 30 日 (土)

● 13:30~14:30「房総きのこ今昔」 講師：吹春俊光（県立中央博物館 上席研究員）

房総をふるさとに持つ方の中には、海岸などのマツ林でのハツタケやショウロ狩りが子供の頃の思い出、という方々もたくさんいらっしゃいます。そんなふるさとのキノコが、近年身近な自然から消滅しつつあるのは何故か。キノコを通して房総の自然を眺め、ふるさと房総の自然にどんな変化がおきているのか、を学びます。

● 14:30~15:30「匝瑳市木積の藤箕づくり」 講師：小林裕美（県立中央博物館 上席研究員）

匝瑳市木積の箕はフジの皮の使用に特色があるため「藤箕」とも呼ばれます。シノダケ、フジ、モウソウチクという身近にある自然の素材からどのように箕が作られるのか、その技術と歴史、また現在の伝承活動を紹介します。

第 2 回 平成 22 年 11 月 27 日 (土)

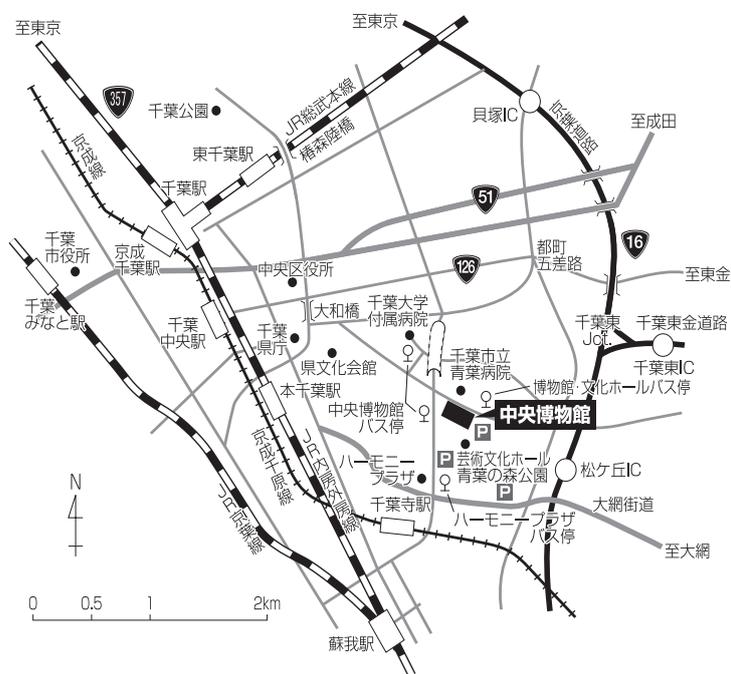
● 13:30~14:30「藤田喬平のガラスの世界」 講師：金田雅成（県立美術館 学芸課長）

藤田喬平(1921～2004)は、永く本縣市川市に住み、文化勲章を受章したガラス工芸家です。日本の伝統美をガラスで表現した代表作「飾篭」や、永年にわたりヴェネチア・ムラーノ島で制作した作品は、国際的にも高い評価を得ました。戦後日本のガラス工芸界で注目され、多くの人々を魅了した藤田喬平の作品と活動を紹介します。

● 14:30~15:30「江戸・明治期の名所案内と名所土産」 講師：渡邊修一（県立美術館 普及課長）

名所図会、買物案内、錦絵や門前で売られていた社寺境内図などをもとに、江戸後期から鉄道が発達する以前の明治前半までの庶民の旅を読み解きます。（関東地区博物館協会共同企画展「関八州名所めぐり」開催記念）

- ◆ 会 場 県立中央博物館 講堂
- ◆ 受 講 料 無料
- ◆ 事業主体 千葉県立博物館（美術館／中央博物館・大根分館・大多喜城分館・分館海の博物館／現代産業科学館／関宿城博物館／房総のむら（指定管理者（財）千葉県教育振興財団）
- ◆ 問い合わせ 千葉県立中央博物館 電話：043-265-3111



< 県立中央博物館のご案内 >

- 住所：〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
 - 開館時間：9:00～16:30（入館は 16:00 まで）
 - ホームページ：<http://www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/>
 - 交通案内
 - ・千葉駅（JR・京成線）東口 7 番乗り場から京成バス「大学病院」 「大学病院・南矢作」行きで約 15 分。「中央博物館」下車、徒歩 7 分。
 - ・千葉駅（JR・京成線）東口 2 番乗り場から千葉中央バス「中央博物館」行きで約 20 分。終点「博物館・文化ホール」下車、徒歩 1 分。
 - ・蘇我駅（JR）東口 2 番乗り場から小湊鉄道バス・千葉中央バス「大学病院」行きで約 15 分。「中央博物館」下車し、徒歩 7 分。
 - ・千葉寺駅（京成千原線）から徒歩約 20 分（蘇我駅からのバスは千葉寺駅を經由します）。
 - ・自動車では京葉道路松が丘インターから約 5 分。
- 中央博物館は「県立青葉の森公園」の中にあります。自動車でお越しの方は「青葉の森公園北口駐車場」をご利用ください。